

区分・種別	国宝(工芸品)		
名 称	あかいとおどしよろい おおそでつき 赤絲威鎧 1領 大袖付		
所 在 地	今治市大三島町宮浦		
所 有 者	大山祇神社	管 理 団 体	
指定年月日	明治34年3月27日 国 昭和27年3月29日 国宝		
解 説	胴高（胸板から胴尻まで）31cm、胴回り117cm、草摺高さ23.5cmである。 一般の平小札よりやや狭小の黒漆塗りの鉄と革の平小札を1枚まぜに茜染の赤糸で威し、耳糸、畦目は啄木、菱縫は紅猿轡で施してある。 この鎧は、兜を欠失しているが、大袖、梅檀、鳩尾の板を具足し、綿嚙に障子板、背面に逆板、正面に弦走韋があつて鎧の制を具備しているが、胴はひと続きで右脇で引き合わせ、草摺が7間に分かれているのは、胴丸の形状であつて、鎧と胴丸の特色を兼備した特殊な鎧である。 弦走韋の枝菊小草文様、鏡地で鍍銀の覆輪の金具回り、臙銀地開き扇文の八双金物及び据文金物、押付の化粧板は松柳に騎馬武者文様菖蒲韋包み、梅檀、鳩尾の板はともに片花先形である。 この種の鎧は、平治物語絵巻、後三年合戦絵詞に副将軍、副大将の着用する鎧として見られるが、遺品としてはこの1領が存するのみである。社の記録には、源平の戦いに源義経が着用し、戦勝のお礼に奉納したものといわれている。		

